

伝え続けてくれる人へ

今年の八月六日、私は広島市の平和記念式典に参列しました。セミが合唱するようになって、空はまぶしく、七十九年前もこんなに暑い日だったのかな、と考えました。

私は学校のじゅうで戦争についての本を読んで、人や生き物にどんなひかりが起きたのかを知りました。お母さんと勉強した学どうそ聞は、私と同じ年の子たちのことだったので、その日の夜はねおれないほどおなか苦しくなりました。

広島でさいへに見た原爆ドームには天井がなく、空が見えます。熱さのあまりにとけてしまったからです。し料館では、丸こげになつた三りん車の前で私は動けなくなりました。横にあつた写真では、今の私と弟と同じように姉弟で手をつないでいて、亡くなつた子は弟と同じ年の三さいでした。こんなに小さな子がどれだけ苦しんだらう。いたかつたらう。となみだがつまみませんでした。

次の日の式典では多くの人が亡くなつた方を想つてなみだを流して、平和をいのる気もちの強さを感じました。そして式典で話したくないつらいけいけんを私たちに伝え続けるために話してくれるひ爆者の方がいることを知りました。私はまだ三年生で知らないことや分からないことがたくさんあります。でも今年の夏、私は分からないことをそのままにはしないと決めました。

私は広島市で見てきたことも、聞いたことも、忘れません。知ろうとすること、忘れないこと、伝え続けることが、地球に住む私たちを守る一歩になると信じています。

私たちのためにつらいきこくを話してくださる方に
ありがたうを心から伝えたいです。そして、戦争に
ついていっしょに勉強してくれたお母さんにもありがたう
を伝えます。

田中 茜乃より

